



独立行政法人国立美術館

国立アートリサーチセンター

National Center for Art Research

2023年8月31日

独立行政法人国立美術館

国立アートリサーチセンター

2023年8月7日(月)・8日(火) に開催した  
『美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修』レポート  
～全国の教育現場から77名が参加  
美術鑑賞教育の在り方についてじっくり深める2日間報告～

国立アートリサーチセンター（センター長：片岡真実）は、2023年8月7日（月）・8日（火）の2日間にわたり、全国の教育関係者を対象とした「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を開催しました。

本研修は学校の教員や美術館の教育普及事業の実践にあたる人材の育成と、地域における学校と美術館の連携を目的とし、2006年度から独立行政法人国立美術館が実施してきたもので、これまでに、全国から小・中・高等学校・特別支援学校等の教員、指導主事、美術館学芸員、1,600人以上の参加実績があります。

この事業を2023年3月28日に設立された国立アートリサーチセンターが引継ぎ、開催18年目となる今回、新たな体制で実施しました。現代美術作品をコレクションする国立国際美術館（大阪）を会場に、全国から77名が参加し、美術館での対話による作品鑑賞や、さまざまなプログラムを通して、教育の場における課題の共有や意見交換が活発に行われました。

参加者の感想や写真を交えながら、2日間の研修内容をまとめ報告します。

■第1日目：8/7(月) 会場：国立国際美術館

10:10～ 講演

「生活や社会の中の造形や美術、美術文化等と豊かに関わる資質・能力を育む鑑賞教育」

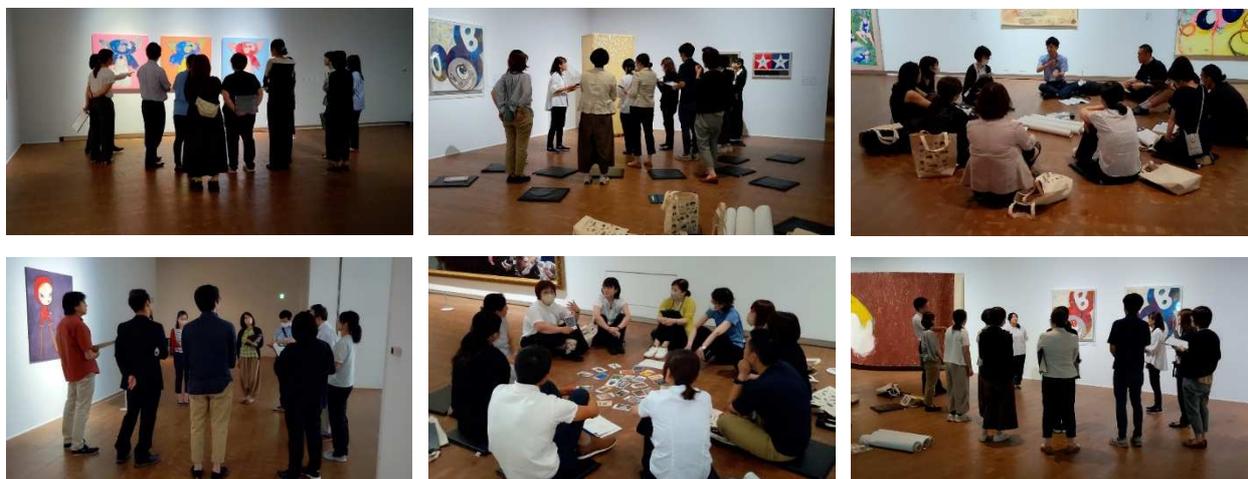
平田朝一／文化庁参事官(芸術文化担当)付教科調査官(併)文部科学省初等中等教育局教育課程課  
教科調査官(併)国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

研修最初のプログラムは、最新の学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり、および美術館と学校の連携について平田氏に講演いただきました。教育課程の基準となる学習指導要領を確認するとともに地域の小中高の授業事例が紹介され、改めて鑑賞教育を授業に落とし込む際の考え方を理解する機会になりました。



## 11:00~12:50/14:10~16:40 グループワーク

参加者は8グループに分かれ、各ファシリテーターの案内のもと、午前/午後の約4時間半にわたって、美術館における鑑賞の在り方を検討。国立国際美術館のコレクション展示室内で作品を観ながら実際に鑑賞を体験し、授業や鑑賞に活かす場合、どのような鑑賞の仕方があり得るか、参加者同士で具体的に議論を深めました。



今年度の新しい取り組みである、支援学校の教員、および支援学校との連携について興味を持つ学芸員で構成された特別支援学校での鑑賞教育実践を考えるグループでは、担当する障がいの種類、度合いは様々ではあるものの、来館時の障壁やファシリティに対するチェックポイント（トイレ内設備、エレベーターの位置・大きさ、車椅子貸出、点字ブロック有無、美術館で何を体験できるのかなど）を共有したり、視点/身体表現/言語活動をテーマに、ディスカッションしながらどのような鑑賞や授業ができるのかを具体的にさらに深めて考えていました。



### 【ワーク後の参加者の感想 一部ご紹介】

- ・「鑑賞と言えば「言葉を扱うもの」というイメージで凝り固まっていたが、グループワークで考えた授業方法などは授業に組み込んで生かせそう」「(これまで美術館に鑑賞に行くという想定が全くなかったが)生徒を連れて美術館に鑑賞に行くイメージが沸いた」
- 「ワークで出た鑑賞のヒントを学校に持ち帰って生徒と共有したい」
- 「早速学校の子も同士の作品鑑賞の場で実施してみたい」

- ・「美術館側もアクセシビリティについては勉強途中のため、安心できる鑑賞の場づくりにとても勉強になった」「障がいのある子供たちを美術館として受け入れる際、どうしても構えてしまいがちだったが、学校と連携しながら対応やケースを積み重ねることが大切だと思った」



### 16:50～ グループワーク成果発表・講評

グループワーク終了後、各グループでのワーク内容と感想が代表者によって発表されました。参加者は他のグループの異なるアプローチや感想に耳を傾け、研修の一日目を終えました。

#### 【発表時の参加者の感想 一部ご紹介】

- ・「学年による特徴を把握して鑑賞を考えた」
- ・「作品のバックグラウンドなど情報を知る前に、自分たちで見つける経験ができた」
- ・「美術館と学校の連携について課題等を考えた」
- ・「現場に置きかえて考え、テーマに沿って各自の意見を共有しあった」
- ・「鑑賞プログラムを作るにあたっても鑑賞をじっくりできたのはよい。作品の質により鑑賞方法が異なるのではと思った」
- ・「知識的情報をどのタイミングで生徒に与えるかや、作品選定については狙いによってアプローチが様々だと感じた」
- ・「作品を子供目線で楽しんだ。作品と絡めて自己紹介し、グループワークでは作品の見方を考えつつ、指導要領に立ち戻り考える。自分たちなりの見方や考え方を深められた」
- ・「具体的にどういった授業ができるかをさらに一步深めて考えた。美術館も歩み寄っていただけのお話をいただけて良かった」



■第2日目:8/8(火)会場:大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)

9:40～ 事例紹介

事例①【小学校】

「出会いを紡ぐーアーティストや美術館、大学、NPO等との連携を通して」

江原貴美子／港区立斧小学校 図工専科教員

事例②【美術館と学校連携】

「学校連携プロジェクトチームの取組」

篠原英里／八戸市美術館 学芸員

安田真理子／八戸市美術館学校連携コーディネーター

事例③【特別支援学校と美術館の連携】

「『つながり』を意識した鑑賞学習ー美術館と連携した知的障害等のある児童生徒との実践ー」

高橋智子／静岡大学 教育学部 准教授

小・中・高・支援学校における学校と美術館の連携について、各登壇者が具体的な事例を紹介。参加者からは「美術館と連携したきっかけは何か」「どのようにプロジェクトメンバーを集めたのか」「どのように連携関係を築いていったのか」といった質問も挙がり、研修後に自分の教育の場に戻った場合の課題など、実際に連携を行う場合のイメージを具体的に描いている様子が見受けられました。



2021年にリニューアルオープンした八戸市美術館と学校との垣根を超えた連携について、設立背景や活動、活動の一環で実施した小中高合同鑑賞会などを紹介。



学校と美術館をつなぐことについて、特別支援学校の院内学級事例から紹介。

12:40～ 講演

「創造性の根源としての鑑賞」

神野真吾／千葉大学教育学部 准教授

『鑑賞とは何か』『鑑賞教育の基本的な枠組みの理解』と『いま社会から求められている創造性の中で、鑑賞の学びがどのような重要性を持っているのか』をテーマに、学問的・思考の仕方についてさらなる理解を進めました。



### 13:45～ ワールドカフェ(グループディスカッションによる全体討論)

4～5名ごと20のテーブルに分かれ、Round1～4までテーマ・メンバーを変えてディスカッションが行われました。『鑑賞によって育まれる力とは何でしょうか』『すべての子どもたちが、美術館や作品を通して学ぶために私たちは何をすべきでしょうか』というテーマに沿って、賑やかな雰囲気の中、活発に意見交換がなされていました。



ワールドカフェ後には「すごく楽しかった！明日から鑑賞教育を考える元気や勇気もらった」、「みんなが楽しめるように私たちの引き出しがたくさんあったらいい。これからも地域でできることを話し合っていく」「学芸員、先生、どちらかが頑張るのではなく、お互いを認め合うことが大事」など、前向きな意見が多く聞かれました。



最後に、2日間を振り返る時間もたれ、各自の感想を書いた付箋を模造紙に張り付けてワールドカフェは終了。参加者は他の人たちの言葉を見ながら、思い思いの視点での感想を受け止めていました。

#### ■令和5年度 職種別研修者数

区分	修了者数
教諭	46名
学芸員	23名
指導主事	8名
全体	77名

なお、本研修については、後日国立アートリサーチセンターのウェブサイトに報告等を掲載する予定です。全国の美術館や学校関係者のみなさまにご覧いただき、美術鑑賞教育の参考にしていただくこととしています。

## ■令和5年度「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」概要

8月7日（月）		8月8日（火）	
会場：国立国際美術館		会場：大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）	
		9:10	受付 [10F 1001-1002会議室前]
9:20	受付 [B1F エントランスホール]	9:40 (120分)	<b>事例紹介：</b> ①「出会いを紡ぐ アーティストや美術館、大学、NPO等との連携を通して」 江原 貴美子（東京都港区立斧小学校 図工専科教員） ②「学校連携プロジェクトチームの取組」 篠原 英里（八戸市美術館 学芸員） 安田 真理子（八戸市美術館 学校連携コーディネーター） ③「『つながり』を意識した鑑賞学習－美術館と連携した知的障害等のある児童生徒との実践－」 高橋 智子（静岡大学 教育学部 准教授）
9:50	開講式・研修概要・オリエンテーション [B1F 講堂]		
10:10 (50分)	<b>講演：「生活や社会の中の造形や美術、美術文化等と豊かに関わる資質・能力を育む鑑賞教育」</b> <b>講師：平田 朝一</b> 文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官（併）文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官（併）国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官		
11:00 (110分)	<b>グループワーク</b> [B1F/B2F 展示室] (移動・休憩含む)	11:40 (60分)	昼食 (60分)
12:50 (80分)	昼食 (80分) B2Fコレクション展自由観覧	12:40 (50分)	<b>講演：「創造性の根源としての鑑賞」</b> <b>講師：神野 真吾</b> （千葉大学教育学部 准教授）
		13:30	休憩 (15分)
14:10 (150分)	<b>グループワーク</b> [B1F/B2F 展示室]	13:45 (105分)	ワールドカフェ
		15:30	休憩 (10分)
		15:40	閉講式 (終了)
		15:50	
16:40	移動・休憩 (10分)		
16:50 (70分)	<b>各グループワークの成果発表・講評</b> [B1F 講堂]		
18:00	(終了)		

### 【本件に関するお問い合わせ先】

国立アートリサーチセンター広報事務局（株式会社プラップジャパン内）名取、星川

※営業時間：月～金 10時～18時（日祝・年末年始除く）

Tel：03-4570-2273 / Fax：03-4580-9127

E-mail: [ncar@prap.co.jp](mailto:ncar@prap.co.jp)